

**2023年度 助成 海外調査研究終了報告書**

※ゴシック文字で記入下さい。

渡航目的	国際学会(International Conference on Urban Climate)での研究成果発表
渡航日程と 海外での成果 (発表・調査など)	8月27日 22:00 羽田空港出発 8月28日 8:50 シドニー空港到着 8月29日～9月1日 国際学会開催期間 8月29日 研究成果発表(ポスター) 9月2日 20:20 シドニー空港出発 9月3日 5:25 羽田空港到着
研究内容の概要	<p>熱中症による健康被害件数が増加し、報道などでも暑熱対策への関心が高まる一方、都市における熱中症の発症傾向は気象条件以外にも土地利用や産業構造等にも関連があることが示唆される。また、高齢者は加齢により体温調節能力や温度感知能力が衰えることから、地域の高齢者人数の多寡はその地域の熱中症発生の脆弱性を修飾していることが考えられる。本研究は愛知県豊橋市の救急搬送データを基に、クラスター分析を用いて市内にある52の小中学校区を3つの代表的な土地利用(「農地」や「都市域」、「工業地域」)に大別することで、1)市内の土地利用と熱中症搬送数との関連、2)市内の高齢化率及び高齢独居率と熱中症搬送者数との関連を明らかにした。</p> <p>豊橋市を4つのクラスター地域に分類し搬送の詳細を調べたところ、それぞれの土地利用を修飾するクラスターにおいて、搬送されやすい特有の年齢階級や発生場所が確認された。クラスターに属する校区間での人口1,000人あたりの搬送者数の統計的な有意差を検定したところ、土地利用の差異によって1,000人あたりの搬送者数の中央値に有意差はみられなかった。このことは、クラスター間の搬送者数の多寡が土地利用の差異によるものではなく、クラスターに属する小中学校区の人口規模の違いに影響を受けることを示唆している。また、クラスターに属する校区間での人口1,000人あたりの搬送者数と高齢化指標との相関分析では、主に「都市域」を修飾するクラスターにおいてその相関が高く、特に高齢独居率において高い正の相関を示した(高齢化率:0.761、高齢独居率:0.797)。上記の相関分析の結果より、単一市町村においても、都市部では高齢化による熱中症搬送のリスクが高いと考えられる。</p>

提出期限: 帰国後すみやかに助成金の「必要経費使途明細書」「領収書」と合わせて提出下さい。